

大阪

※2024年春実施の全国公立高校入試情報は、2023年12月1日現在によるものです。

1. 日程

[特別入学者選抜(特別選抜)]

I：専門学科(工業に関する学科(建築デザイン科，インテリアデザイン科，プロダクトデザイン科，映像デザイン科，ビジュアルデザイン科，デザインシステム科)，グローバル探究科，美術科，体育に関する学科，芸能文化科，演劇科，音楽科，総合造形科)

II：総合学科(エンパワメントスクール・多様な教育実践校)

III：多部制単位制 I・II部 (クリエイティブスクール)

●学力検査

2/20

○実技検査(I)・面接(II・III)

2/21

(音楽科の視唱・専攻実技 2/17，聴音 2/20)

○合格発表

2/29

[一般入学者選抜(一般選抜)]

(特別選抜を実施しない全ての学科)

●学力検査

3/11

○合格発表

3/19

2. 学力検査

[特別選抜]

国語：40分・45点

数学：40分・45点

英語：40分+リスニングテスト：15分・45点

理科：40分・45点

社会：40分・45点

<225点満点>

各高校ごとに設定している満点に換算する。→「備考」参照。

※専門学科は実技検査，総合学科と多部制単位制は面接を実施。

実技検査：各検査20～180点，科ごとの合計100～225点。

※国・数・英で各高校が問題の種類を選んで実施。→「備考」参照。

※総合学科(多様な教育実践校)は国・数・英の3教科で実施。135点満点を225点満点に換算する。

[一般選抜]

国語：50分・90点

数学：50分(60分)・90点

英語：40分(30分)+リスニングテスト：15分(25分)・90点

理科：40分・90点

社会：40分・90点

<450点満点>

各高校ごとに設定している満点に換算する。→「備考」参照。

※国・数・英で各高校が問題の種類を選んで実施。上記検査時間の()は、それぞれ「発展的問題」で選抜する場合の検査時間。→「備考」参照。

3. 調査書

[評定の記載方法]

5段階(絶対評価)

[調査書点の算出方法]

3年重視 9教科を同等に扱う。

■特別選抜

3年9教科×5段階×3+2年9教科×5段階+1年9教科×5段階=225点

<225点満点>

※総合学科(多様な教育実践校)は、受験者ごとに評定の高い3教科を2倍して225満点に加え、300満点にした点数を225点満点に換算する。

■一般選抜

3年9教科×5段階×6+2年9教科×5段階×2+1年9教科×5段階×2=450点

<450点満点>

※両選抜とも各高校ごとに設定している満点に換算する。→「備考」参照。

4. 合否判定

[調査書と学力検査の比重]

3:7~7:3の5つのタイプから、各高校が選択。

[判定方法]

点数加算方式

調査書の評定点と学力検査の得点に、高校が選択したタイプの倍率をかけた点を合計する。さらに、実技検査の得点(実施した場合)を合計した総合点を主な資料とする。

自己申告書と調査書の「活動/行動の記録」も資料とする。

<実技検査を実施する特別選抜・一般選抜>

①総合点の高い者から定員の110%に相当する者を(I)群とする。

②(I)群で、総合点の高い者から順に、募集人員の90%に相当する者を合格とする。

③(I)群で合格が決まっていない者を(II)群(ボーダーゾーン)とし、自己申告書及び調査書の「活動/行動の記録」により、各高校の「アドミッションポリシー(求める生徒像)」に極めて合致する者を、総合点の順位に関わらず優先的に合格とする。

④合格者が募集人員に満たない場合は、③による合格者を除き、(II)群の中から総合点の

高い者から順に、募集人員を満たすまで合格とする。

※複数志望がある高校の場合

①全ての受験者を、志望順位に関係なく、総合点の高い者から順に並べる。

②総合点の高い者から順に、第1志望の学科に振り分ける。

③②において募集人員の110%に当たる人数まで、第1志望の者で先に満たした学科から合格者を決定する。

④すでに合格となった者を除き、第1志望・第2志望に関わらず、総合点の高い者から順に合格者を決定する。

〈面接を実施する特別選抜〉

①学力検査の得点が教育委員会の定める基準に達した者から、A 面接・B 自己申告書・C 調査書の「活動/行動の記録」を2:1:1の比率で資料として、各高校の「アドミッションポリシー」に最も適合する者から順に、募集人員の50%までを合格とする。

②残りの者の中から、総合点の高い者から順に合格者を決定する。

※総合学科(多様な教育実践校)は、学力検査の得点と評定点の合計点を50点ごとの9グループに分け、学びに関する評価とする。一方、面接の評価を意欲に関する評価とする。この両評価を横軸と縦軸とする表をもとに合格者を決める。

※複数志望がある高校の場合

①学力検査の得点が教育委員会の定める基準に達した者から、第1志望の者を対象に、高校の「アドミッションポリシー」に最も適合する者から順に、募集人員の50%までを合格とする。

②残りの者を学力検査の得点の高い者から順に第1志望に振り分け、募集人員の100%まで満たした段階で、先にその学科の合格者を決定する。

③100%まで満たしていない学科は、第1志望・第2志望の区別なく、学力検査の得点の高い者から順に合格者を決定する。

5. 推薦入学等

特別選抜と同時期に行われる選抜は以下の通り。

■豊中の能勢分校

[検査実施日]

2/20・21

[検査内容]

学力検査(5教科)、面接

※面接・自己申告書・調査書の「活動/行動の記録」…点数化し、300点満点に換算。学力検査点・調査書点と合計して総合点とする。

[合格発表]

2/29

■海外帰国生徒選抜

実施校・学科が指定されている。

[検査実施日]

2/20

[検査内容]

学力検査(数・英), 面接

[合格発表]

2/29

■日本語指導が必要な帰国生徒・外国人生徒選抜

実施校・学科が指定されている。

[検査実施日]

2/20

[検査内容]

学力検査(数・英), 作文

[合格発表]

2/29

6. 備考

通学区域は府内全域。

募集人員を複数の学科ごとに設定している高校では、他の1学科を第2志望とすることができる。

いずれの選抜に出願する場合も、志願者は出願時に「自己申告書」を提出(日本語指導が必要な帰国生徒・外国人生徒選抜を除く)。各高校は、選抜の資料及び面接の参考資料とする。

※自己申告書…府教育委員会が提示する下記のテーマに沿って記載する。

「あなたは、中学校等の生活(あるいはこれまでの人生)でどんな経験をし、何を学びましたか。また、それを高等学校でどのように生かしたいと思いませんか。できるだけ具体的に記述してください。」

※英語力判定テストの活用

学力検査の英語の点数と、外部機関認証の英語力判定テスト(TOEFL iBT, IELTS, 実用英語技能検定)のスコア等を府教育委員会が換算した点数の、高い方を英語の学力検査の成績とすることができる。上記の英語資格を活用する志願者は、出願時に、英語資格のスコア等の証明書の写しを提出。

※すべての選抜において、出席停止扱いの感染症により学力検査等すべての検査を受験しなかった者は、同じ選抜の追検査を受験できる。

※合格者が募集人員に満たない場合、二次入学者選抜を実施する。

[調査書と学力検査の比重と満点]

3:7~7:3の比重の計算方法は以下の5タイプ

I : (学力検査点)1.4倍・(調査書点)0.6倍

II : 1.2倍・0.8倍

III : 1.0倍・1.0倍

IV : 0.8倍・1.2倍

V : 0.6倍・1.4倍

○特別選抜でIを選択…東住吉の芸能文化科

○一般選抜でIを選択…東，清水谷，夕陽丘，阿倍野，東住吉，阪南，池田，桜塚，刀根山，箕面，春日丘，山田，三島，寝屋川，枚方，牧野，香里丘，いちりつ，布施，八尾，河南，富田林，狭山，登美丘，泉陽，東百舌鳥，高石，和泉，久米田，佐野，日根野，市岡，槻の木，鳳，住吉，千里，泉北，北野，大手前，高津，天王寺，豊中，茨木，四條畷，生野，三国丘，岸和田，今宮，千里青雲，堺東

[学力検査問題の選択]

国語・数学・英語で，3教科それぞれA「基礎的問題」，B「標準的問題」，C「発展的問題」の3種類から各高校が選択する。なお，数学がCであった場合，数学の実施時間は60分。英語がCであった場合，55分内のリスニングテストの比重が，時間・配点ともに増える。

○特別選抜はAかB

○一般選抜

・3教科すべてC…春日丘，八尾，富田林，泉陽，和泉，鳳，千里，北野，大手前，高津，天王寺，豊中，茨木，四條畷，生野，三国丘，岸和田

・国・英がC…池田，住吉

・国・数がC…三島，寝屋川

・国がC…清水谷，夕陽丘，佐野，桜和，今宮